

令和元年度 事務事業総点検シート(1)
[平成30年度事務事業]

一般会計		事務事業分類			詳細点検
事務事業名	消防水利整備事業	シート番号			A 一般事務事業
担当部署名	消防 局	警防 部	警防 課	評価責任者(課長名)	阪下

Ⅰ. 基本情報

基本情報	1	堺市マスタープランの政策体系に基づく事業の位置付け	政策	1	暮らしの確かな安全・安心を確保します	後期実施計画の位置付け
			施策	7	地域防災力の向上と災害に強いまちづくりの推進	無
	2	事業開始年度	— 年度		終了(予定)年度	— 年度
	3	根拠法令等(法令、条例、規則、要綱等)	消防水利の基準			
	4	関連計画	堺市消防局防火水槽整備計画			
5	事業実施の経緯	消防水利については、約9割近くを消火栓に頼っているのが現状であるが、水道の断水時には消火栓が使用不能になり、先の阪神・淡路大震災時には、ほとんどの消火栓が断水し、消火に困難を極めた教訓から、防火水槽の整備拡充を図るものである。				

Ⅱ. 事業概要

事業概要	6	事業の実施主体(誰が実施しているのか。)	<input checked="" type="checkbox"/> 本庁 <input type="checkbox"/> 各区 <input type="checkbox"/> 出先機関 () <input type="checkbox"/> 市外郭団体			
			<input type="checkbox"/> 地域団体・市民 <input type="checkbox"/> 民間企業・NPO <input type="checkbox"/> その他 ()			
	7	事業の対象(誰を、何を対象としているのか)	全市民・地震等大規模災害発生時の消火活動			
	8	事業の目的(どのような状況にしたいのか)	地震災害発生時に必要不可欠な耐震性を有した公設防火水槽の整備拡充を図り、災害に強いまちづくりを推進する。 (市街地を250m四方にメッシュ割をし、各メッシュに消火栓以外の消防水利が含まれた状態を目標とする。)			
9	事業内容(スケジュール、実施方法・手段、事業ボリュームなど)	地震災害発生時、消防水利の大半を占めている消火栓が使用不可能となった場合に備え、消火栓及び私設消火栓を除く消防水利の空白地(400箇所)を対象として、耐震性防火水槽を年度毎に3基新設を目標としている。既存の公設防火水槽のうち、設置後50年を経過したもの(100基)を対象に、毎年度耐震補強工事を1基、次年度以降の耐震補強工事のための調査設計業務を4基実施を目標としている。				
10	直接実施以外の主な支出先	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> その他 ()				

Ⅲ. 投入量

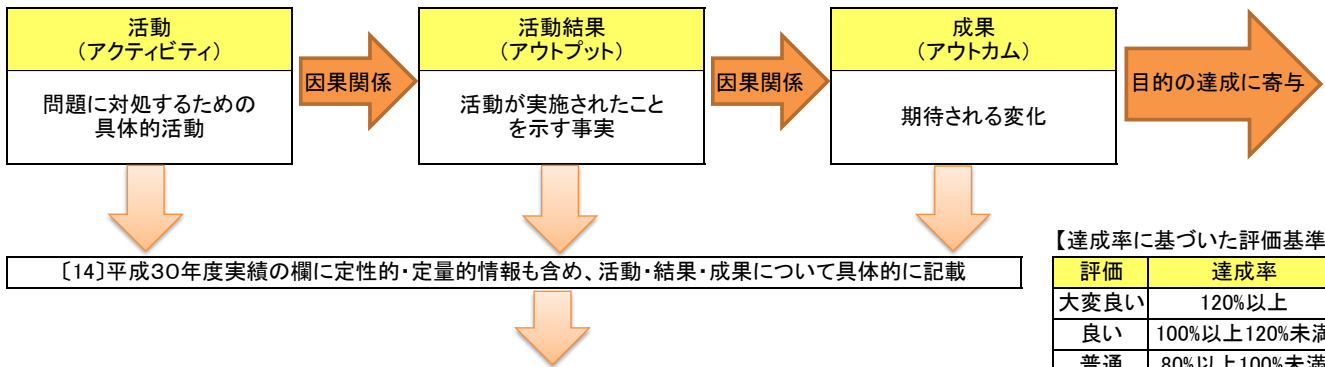
項目	単位	H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R1年度予算	
11 事業費(a)	千円	14,233	22,622	19,946	17,140	
主な事業費内訳	防火水槽新設工事	千円	10,759	16,164	19,946	0
	防火水槽耐震補強工事	千円	0	0	0	9,900
	防火水槽耐震補強設計業務	千円	0	0	0	2,240
	経年防火水槽調査業務	千円	0	0	0	5,500
	国・府支出金	千円				
財源内訳	受益者負担金(使用料、手数料等)	千円				
	市債	千円	10,700	16,100	19,900	10,900
	その他()	千円				
一般財源	千円	3,533	6,522	46	6,240	
12 人件費(b)	千円	12,300	12,300	12,300	12,150	
13 総コスト(c)=(a)+(b)	千円	26,533	34,922	32,246	29,290	

令和元年度 事務事業総点検シート(2)

事務事業名	消防水利整備事業	シート番号	90-14
-------	----------	-------	-------

Ⅳ. 評価(測定・分析)

ロジックモデルの考え方



【達成率に基づいた評価基準】

評価	達成率
大変良い	120%以上
良い	100%以上120%未満
普通	80%以上100%未満
少し悪い	60%以上80%未満
悪い	60%未満

事業の活動内容や成果

		平成30年度実績						
活動実績と成果	14	建設局河川水路課に工事施工依頼し、堺市中区の公園に防火水槽(100t)設置工事を1基実施した。今後、経年防火水槽の調査、各防火水槽に応じた補強工事を計画的に年間複数基実施するため、消防局に技術職員を配置した。						
	15	指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
		防火水槽の整備 (新設工事、補強工事、調査設計業務)	水槽	目標値	8	8	8	8
				実績値	1	1	1	1
				達成率	13%	13%	13%	13%
	評価	悪い	悪い	悪い	悪い	悪い		
	算出方法・設定根拠など		施工数					
	16	指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
			目標値					
			実績値					
達成率								
評価								
算出方法・設定根拠など								

業績の分析

	目標を達成できた、または達成できなかった要因についての分析 (その他、関連情報に基づいた分析)
17	<ul style="list-style-type: none"> ・防火水槽新設工事3基を目標としていたが、新設用地の確保が年々難航しているため、施工数が伸びない。 ・経年防火水槽の耐震補強工事1基、耐震補強工事調査設計業務4基を目標としていたが、補強工事の工期は約半年かかり、年間複数基の施工が困難であるため、新たな工法を取り入れる必要がある。 ・上記のことから、新たに配置された技術職員による経年防火水槽の調査、新たな補強工事の検討及び年間複数基の補強工事が必要である。

【分析のチェックポイント】

- 事業の達成度はどうでしたか。
- 5W2Hを踏まえて、実施過程に問題はありませんでしたか。
- 資源投入は適切でしたか。
- 事前想定できない外的要因の影響はありませんでしたか。
- 事業の有効性は高いですか。低いですか。